



編集・発行 邑楽町役場企画課
 〒 370-0692(住所記入不要)
 ☎ 0276-88-5511(代番)
 ☎ 0276-47-5007(企画課直通)
 ☎ 0276-89-0136
 http://www.town.ora.gunma.jp
 koho@swan.town.ora.gunma.jp

邑楽町携帯サイト
 2次元コード対応の携帯電話は、右のコードをご利用ください。読み取りができない場合はURLをご入力ください。
 携帯用URL http://www.town.ora.gunma.jp/k



〈第八十回〉

若い人たちに語り継ぎたい、次の世代に残しておきたい。貴重な話をお届けしますー。

あすへひとこと

いつの時代までも残したい

邑楽町の昔ばなし



正月の三が日は、雑煮・そば・うどんと邑楽町の粉食文化が、垣間見える三つのお話。皆さんの家では、どこかに当てはまりますか

三が日の朝は雑煮

元日になると、隣近所や親類などと5、6軒が集まり、その中で神にお供えものをする人がまず身を清めるといって朝湯の習わしがあった。

私の家では、三が日の朝は雑煮の風習で、夜は白米をたき、朝お供えをしたお白米というものに重ねて供えたが、これは三が日同じことのくり返しだった。

七草の日までは毎日が餅腹なので餅は食傷気味になっているため、祖母が「七草なすな、唐土の鳥が渡らぬうちに……」とよく言っていた。春の七草の一つであるなすなを入れたお粥は楽しみであった。

正月の三が日はそば食

大みそかの夜には年越しそばを食べたが、家によってはいろいろと風習があり、私の家などは正月の三が日はそば食であった。

その他、私の家の三が日は、そば神様に作った主食を、七日間に渡って毎朝供えてから食事をした。一週間



正月の三が日はうどん

うちでは正月の三が日の朝はうどん縁起で母は大変だった。家でとれた小麦粉の手打ちうどんなので、味は今でも忘れられないほどうまく、厳寒のころ打ってくれた母のことを、正月を迎えるたびに思い出す。

私で三代目になったが三が日の朝のうどん縁起は今でも続いている。

しめ飾りをした神棚に紅白の餅を供え、お神酒をあげてかしわ手を打ち、一年間の無事を祈るとき、わが家の和と初春を迎えるありがたさを感じ、しみじみと感じるのである。

私の若い時代のことを思えば、何もかもあり過ぎて困るくらいに満ち足りている現在に、心から感謝している。



【発行】邑楽町老人クラブ連合会 【編集】あすへひとこと編集委員会
(平成7年3月31日発行「邑楽町の盆と正月(第五集)あすへひとこと」)より



夕日とともに
(多々良沼公園)



Photo 原田八重子(記録ボランティア)

ひとりごと From editors

▶今月号の取材を1件担当しました。今までは撮影の補助や撮影のみでしたが、あらたまった取材というのは今回が初めての経験でした。定型のコーナーだったので、そこに収まる一枚の写真を撮る難しさ。決められた文字数で取材した内容を伝えるように表現する難しさ。あらためて勉強になりました。▶今、来年度の「くらしのカレンダー」を作成しています。デザインや編集は印刷業者をお願いしていますが、行事予定の集約や写真の選定をしています。この写真選定の難しさ。写真は町の記録ボランティアさんが撮影したのですが、いい写真が多いので今回も選定に苦しんでいます。ちなみに、この左側の写真も記録ボランティアさん撮影。記録ボランティアさんに感謝。(小室)